

<日中戦争対立の原因>

昭和一五年(一九四〇年) 二月二日の斎藤隆夫の第七五回帝国議会

本会議での日中紛争処理に関する演説 (下)

<演説途中の官報に掲載されなかった削除部分>

○ 斎藤隆夫の支那事変処理方針への質問演説

私は是より一步を進めまして少し私の議論を交えつつ政府の所信を聴いて見たい。政府に於いては斯う云うことを言われるに相違ない。又歴代の政府も言うて居る。何であるか。

此の度の戦争は是までの戦争と全く性質が違うのである。此の度の戦争に当っては、政府は飽くまでも所謂小乗的見地を離れて、大乘的の見地に立って、大所高所より此の東亜の形勢を達観して居る。

そうして何事も道義的基礎の上に立って国際正義を楯とし、所謂八紘一宇の精神を以て東洋永遠の平和、延いて世界の平和を確立するが為に戦って居るのである故に眼前の利益などは少しも顧る所ではない。是が即ち聖戦である。神聖なる所の戦であると言う所以である。

斯様な考を持って居らるるか分らない。現に近衛声明の中には確に此の意味が現われ居るのであります。其の言は洵に壮大である。其の理想は高遠であります。併しながら斯の如き高遠なる理想が、過去現在及び将来国家競争の実際と一致するものであるか否やと云うことに付いては退いて考えねばならぬのであります。(拍手)

いやしくも国家の運命を担うて立つ所の実際政治家たる者は、唯徒に理想に囚われることなく、国家競争の現実に即して国策を立つるにあらざれば、国家の将来を誤ることがあるのであります。(拍手)

現実に即せざる所の国策は真の国策にあらずして一種の空想であります、先ず第一に東洋永遠の平和、世界永遠の平和、是は望ましきことではありまするが、実際是が

実現するものであるか否やと言うことに付ては、お互に考えねばならぬことである。

古来何れの時代に於きましても平和論や平和運動の止むことはない。宗教家は申すに及ばず、各国の政治家等も口を開けば世界の平和を唱える。又平和論の前には何人と雖も真正面からして反対は出来ないのであります。併しながら世界の平和などが実際得られるものであるか、是は中々難しいことであります。私共は断じて得られないと思つて居る。

十年や二十年の平和は得られるか知れませぬが、五十年百年の平和すら得られない。歴史家の記述する所に依りますると、過去三十五世紀、三千四百幾十年の間に於て、世界平和の時代は僅に二百幾十年、残り三千二百幾十年は戦争の時代であると言つて居る。斯の如く過去の歴史は戦争を以て覆われて居る。将来の歴史は平和を以て満さるべしと何人が断言することが出来るか。(拍手)

のみならず御承知の通りに近世文明科学の発達に依りまして、空間的に世界の縮小したること実に驚くべきものである。之を千年前の世界に比較するまでもなく、百年前の世界に比較するまでもなく、五十年前の世界に比較しましても実に別世界の感が起らざるを得ないのである。

此の縮小せられたる世界に於て、数多の民族、数多の国家が対立して居る。其の上人口は増加する。生存競争は愈々激しくなつて来る。民族と民族との間、国家と国家との間に競争が起らざるを得ない。而して国家間の争いの最後のものが戦争であります以上は、此の世界に於て国家が対立して居ります以上は、戦争の絶ゆる時はない。平和論や平和運動が何時しか雲散霧消するのは是は已むを得ない次第であります。若し之を疑われるのでありますならば、最近五十年間に於ける東洋の歴史を見ましよう。

先程申上げました通りに、我国は曾て支那と戦つた。其の戦に於ても東洋永遠の平和が唱えられたのである。次に露西亞と戦つた。其の時にも東洋永遠の平和が唱えられたのである。又平和を目的として戦後の条約も締結せられたのでありまするが、平和が得られましたか。得られないではないか。平和が得られないからして今回の日支事変も起つて来たのである。又、眼を転じて欧羅巴の近状を見ましよう。

御承知の通りに二十幾年前に欧羅巴はあの通りの大戦争をやつた。五箇年の間、国を挙げて戦つた。戦争の結果はどうなつたか。敗けた国は言うに及ばず、勝つた国と雖も徹頭徹尾得失相償わない。

其の苦き経験に顧みて、戦争などはやるものでない。凡そ此の世の中に於て戦争ほど馬鹿らしきものはない。それ故に未来永久、此の地球上からして戦争を絶滅する。其の目的、其の理想を以て国際連盟を作った。

我が日本も五大強国の一として之に調印して居るのであります。平和は得られましたか。国際連盟の殿堂はどうなって居るか。

民族の発展慾、国家の発展慾は、紙上の条約などで以て抑制することが出来るものでない。十年経ち、二十年経つ間に於て、又もや戦争熱が勃興して来る。欧羅巴の現状は活きたる教訓を吾々の前に示して居るのであります。

或者は言うて居る、此の度の戦争は「ベルサイユ」条約が因である、「ベルサイユ」条約に於て独逸に向つて苛酷なる所の条件を課したから其の反動として今回の戦争が起つたのであると斯う言うて居る。

一応の理窟であるに相違ない。併しながら「ベルサイユ」条約がなかったならば戦争は起らなかったと誰が断言することが出来るか。第一欧羅巴戦争の前に於きましては「ベルサイユ」条約はなかったのでありますけれども、戦争は起つたのである。

即ち人間の慾望には限りがない、民族の慾望にも限りがない。国家の慾望にも限りがない。屈したるものは伸びんとする。伸びたるものは更に伸びんとする。弦に国家競争が激化するるのであります。命之を疑う者があるならば更に遡つて過去数千年の歴史を見ましょう。

世界の歴史は全く戦争の歴史である。現在世界の歴史から、(発言する者多し)戦争を取除いたならば、残る何物があるか。そうして一たび戦争が起りましたならば、最早問題は正邪曲直の争ではない。是非善悪の争ではない。徹頭徹尾力の争であります。強弱の争である。強者が弱者を征服する、是が戦争である。

正義が不正義を膚懲する、是が戦争と云う意味でない。先程申しました第一次欧羅巴戦争に当りまして、随分正義争いが起つたのであります。独逸を中心とする所の同盟側、英吉利を中心とする所の連合側、何れも正義は我に在りと叫んだのであります。戦争の結果はどうなったか。正義が勝つて不正義が敗けたのでありますか。そうではないのでありましょう。正義や不正義は何処かへ飛んで行って、詰り同盟側の力が尽き果てたからして投げ出したに過ぎないのであります。

今回の戦争に当りまして相変らず正義論を闘わして居りますが、此の正義論の価

値は知るべきのみであります。詰り力の伴わざる所の正義は弾丸なき大砲と同じ事である。(拍手)

羊の正義論は狼の前には三文の値打もない。欧羅巴の現状は幾多の実例を我々の前に示して居るのであります。斯の如き事態でありますから、国家競争は道理の競争である。正邪曲直の競争でもない。徹頭徹尾力の競争である。(拍手)世にそうでないと言う者があるならばそれは偽であります、偽善であります。我々は偽善を排斥する。

飽くまで偽善を排斥して以て国家競争の真髓を掴まねばならぬ。国家競争の真髓は何であるか。日く生存競争である。優勝劣敗である。適者生存である。適者即ち強者の生存であります。強者が興って弱者が亡びる。過去数千年の歴史はそれである。未来永遠の歴史も亦それではなくてはならないのであります。(拍手)此の歴史上の事実を基礎として、吾々が国家競争に向うに当りまして、徹頭徹尾自国本位であらねばならぬ。自国の力を養成し、自国の力を強化する、是より外に国家の向うべき途はないのであります。(拍手)

彼の欧米の基督教国、之を御覧なさい。彼等は……。 (「もう宜い」「要点要点」と呼び、其の他発言する者多し)

議長 (小山松寿君) 静肅に願います。

斎藤隆夫君(続) 彼等は内にあつては十字架の前に頭を下げて居りますけれども、一たび国際問題に直面致しますと、基督の信条も慈善博愛も一切蹴散らかしてしまつて、弱肉強食の修羅場に向つて猛進をする。是が即ち人類の歴史であり、奪うことの出来ない現実であるのであります。

此の現実を無視して、唯徒に聖戦の美名に隠れて、国民的犠牲を閑却し、日く国際正義、日く道義外交、日く共存共栄、日く世界の平和、斯の如き雲を掴むような文字を列べ立てて、そうして千載一遇の機会を逸し、国家百年の大計を誤るようなことがありましたならば

(小田栄君「要点を言え、要点を」と呼び其の他発言する者多し)

議長(小山松寿君) 静肅に願います、小田君に注意致します。

斎藤隆夫君(続) 現在の政治家は死しても其の罪を滅ぼすことは出来ない。私は此

の考を以て近衛声明を静に検討して居るのであります。即ち之を過去数千年の歴史に照し、又之を国家競争の現実に照して……。 (発言する者多し)

議長(小山松寿君) 静肅に願います。

斎藤隆夫君(続) 彼の近衛声明なるものが、果して事變を処理するに付て最善を尽したるものであるかないか。振古未曾有の犠牲を払いたる此の事變を処理するに適當なるものであるかないか。東亜に於ける日本帝国の大基礎を確立し、日支兩國の間の禍根を一掃し、以て将来の安全を保持するに付て適當なるものであるかないか。之を疑う者は決して私一人ではない。(拍手)

いやしくも国家の将来を憂うる者は必ずや私と感を同じくして居るであろうと思う。それ故に近衛声明を以て確乎不動の方針なりと声明し、之を以て事變処理に向わんとする現在の政府は、私が以上述べたる論旨に対し逐一説明を加えて、以て国民の疑惑を一掃する責任があるのであります。(拍手)

私は更に進んで重慶政府と、近く現われんとする所の新政府との關係に付て御尋を致したいのであります。

昨年八月阿部内閣が成立致しました當時に於ては、江兆銘氏を首班とする所の新政府は今にも現われんとするが如き噂が立てられたのでありますが、それが段々と延引して今日に至って居るのである。

併し聞く所に依れば、愈々近く其の成立を見んとするのでありますから、是は日支兩國の為に洵に慶賀に堪えないことであります。我国はつとに蔣政權を撃滅するまでは断じて鋒をおさめない、国民政府を対手にしては一切の和平工作をやらないと宣言して居る。

然る以上は新に生るる所の新政府、之を授けて以て和平調整を為さねばならぬ。之に付ては誰一人として反対する者はないのであります。併しながら退いて考えて見ますと、一体此の新政府はどれだけの力を持って現われるのであるか。

是が私共には分らないのであります。申すまでもなくいやしくも國際間に於て、又國際法上に於て、政府として立ちまする以上は、内に向つては国内を統治する所の實力を備え、外に向つては國際義務を履行する所の能力を有する此の内外両方面の条件を兼備するものにあらざれば、政府として立つことも出来ねば、政府として之を承認することも出来ない筈であります。

其の實力とは何であるか、即ち兵力であります。軍隊の力であります。如何に法制を

整えても、如何に政治機構を打建てても、又如何に文章口舌に巧みでありまして、兵力を有せざる政府の威令が行われる訳がない。殊に之を支那歴朝創業の跡に顧みまして、旧王朝を滅して新王朝を創業する、旧政權を倒して新政權を建設する者は、悉く武人であります。

即ち兵馬の間に天下の權を握らざる者はないのである。彼の孫逸仙が革命事業に向って一生の精力を傾倒したに拘らず、其の業が成らず志を得ずして終に最後を遂げたのは何が故であるか。

詰り彼が武人にあらず、武力を有しなかつたからであります。之に反して彼の後輩であります所の蒋介石が、一時なりとも支那を統一したのは何が政であるか。彼が武人であつて武力を有して居つたからであります。

殊に近頃支那の形勢を見渡しますると云うと、後軍の占領地域であり同時に新政權の統轄地域である所に於てすら、匪賊は横行する、敗残兵は出沒する、国内の治安すら完全に維持することが出来ない。

加うるに新政府と絶対相容れざる所の彼の重慶政府を撃滅するにあらざれば、新政府の基礎は決して確立するものではない。それ故に新しき政府を打建てる第一の条件は何と云つても兵力でありまするが、將に現われんとする所の新政府には其の力があるのであるかないのであるか、之に付て御説明を煩わしいと思ふのであります。

次に新政府が現われましたならば、我国は何としても之を承認せざるを得ないのであります。之を承認すると同時に此の新政府の発展に向つては極力之を支持せねばならぬのである。

支持すべきことを既に声明せられて居る以上は、此の声明を何処までも履行しなければならぬ。即ち是が為には政治に於ても、軍事上に於ても、又經濟上に於ても、其の他有ゆる犠牲を払つて此の新政府を授けねばならぬのである。

そうして新政府を授けて将来名実共に完全なる獨立政府とした其の後に於て、我国との關係が極めて円満に持続せらるるものであるかないか、是も大切なる問題であるのであります。

吾々は決して新政府を疑う者ではない。殊に江兆銘氏を初めとして、身を挺して和平救國の為に奮闘して居る所の彼の支那の政治家諸氏に対しては、衷心より敬意を払う者であります。

併しながら国の異なるに従って国民性にも違いがある。是は仕方がない。現に江兆銘氏は1昨年暮に重慶脱出以来屢々声明書を發表して、蒋介石に向つて和平勸告をしたのであります。が蒋介石は之を一蹴して顧みない。

そこで昨年七月には断然として蒋介石に向つて絶縁状を送つて居る。然るにも拘らずつい最近一月の十六日でありますか、それこそ辞を卑くし、言葉を厚くして蒋介石に向つて停戦講和の通電をうつて居る。

是は支那の政治家に於て初めて出来ることでありまして、吾々日本の政治家に於ては想像も及ばないことである。それ故に新政府を援助することは宜しいが、新政府の将来に向つて決して盲目であつてはならない。之に付て総理大臣はどう云う考へを持って居られるのであるか、之を一つ承つて置きたいのであります。

次に新政府が出来た後に於て重慶政府との關係はどうなるものであるか、之に付きましては前内閣の阿部首相は新聞紙を通じて、斯う云う意見を述べて居られるのであります。

即ち新政権が出来たならば、新政権は重慶政府に向つて働き掛けるであろう。新政権樹立の趣旨が徹底したならば、重慶政府も表になつて和平救国の途に就くであろう。斯う云う意見を述べて居られるのであります。而して是は決して前阿部首相一人のみの意見ではない。

今日政府の要人の中には確に此の意見を持って居る人があるのであります。是が私には分兼ねるのである。新政権と重慶政府、どう考へても是が将来表するものであるとは思へないのであります。なぜに一致しないか。

御承知の通り重慶政府は徹頭徹尾容共抗日を以て其の指導精神と爲し、之を基として長期抗戦を企てて居るのである。然るに之に反して新政府は容共抗日を以て指導精神と爲し、之を以て新政府の樹立に向つて進んで居るのである。

此の氷炭相容れざる二つのものがどうして一緒になることが出来るか。吾々に於てはどうも是は想像が付かない。而して是は唯理窟ばかりの問題ではなくして支那の現状を見ましても斯様なことは到底想像することが出来ないのである。

殊に先程申しましたように、蒋介石を徹底的に撃滅するにあらざれば断じて矛をおさ

めない。此の鉄の如き方針が確立して、之を以て有する作戦計画が立てられて居るべき苦であるのであります。先程引用致しました所の文書の中に於きましても、確に其の意味は現われて居るのである。

「即ち新政府が出来た所が蒋介石は決して兜を脱がない、重慶政府が屈服しない限りは日本軍は飽くまでも重慶討伐に向って進軍するのである。注兆銘は日本の重慶討伐に便乗して戦うのである」是が軍部の方針であるに相違ないのであります。

然るに前内閣の首相及び政府の要人は斯の如き気楽なる考を持って居る。支那事変処理の根本方針に付て政府と軍部との間に於て何か意見の相違があるらしくも思えるのであります。是は前内閣のやったことでありまして、現内閣のやったことではないのであります。併し支那事変の処理に付ては前内閣の方針を踏襲すると言われた所の現内閣の総理大臣は、之に付ても相当の御考があるには相違ないと思ひますから、此の点も併せて伺つて置きたいのであります。

次に重慶政府に対する方針、重ねて申しまするが、蔣政権を撃滅するにあらざれば断じて矛はおさめない、蒋介石の政府を対手としては一切の和平工作はやらない、此の方針は動かすべからざるものであります。其の後蒋介石は敗戦に次ぐに敗戦を以てして、今日は重慶の奥地に逃込んで、一地方政権に墮して居るとは言うものの、今尚大軍を擁して長期抗戦を豪語し、有する作戦計画を為して居るように見受けられるのであります。

固より之に付ては我方に於きましても確乎不拔の方針が立てられて居るに相違ありませぬが、併し前途のことは測り知ることが出来ない。然るに一方に於ては何処までも新政権を支持せねばならぬ。有ゆる犠牲を払つて之を支持せねばならぬ。即ち一方に於ては蒋介石討伐、他の一方に於ては新政権の援助、我国は是より此の二つの重荷を担うて進んで行かなければならぬのであります。是が我が国力と対照して如何なる関係を持って居るものであるか。

私共決して悲観するものではない。悲観するものではないが、是が人的関係の上に於て、物的関係の上に於て、又財政経済の關係に於て如何なるものであるかと云うことは、全国民が聴かんとする所であると思つて居るのであります。(拍手)

それ故に此の点に付きましては総理大臣は申すに及ばず、関係大臣に於て出来得る限りの説明を与えられたい。吾々は固より言えないことを聴こうとするのではない。

外交上、軍事上、其の他経済財政の關係に於きましても、言えないことがあることは能く承知して居るのでありますから言えないことを聴かんとするのではない。此の議場に於て言えるだけの程度に於て、成べく詳しく御説明を願いたいと思うのであります。

最後に支那全体を対象として今後の形勢に付て政府の意見を聴いて置きたいことがある。申すまでもなく支部は非常な大国であります。其の面積に於きましても日本全土の十五倍に上って居る、五億に近い人口を有して居る。

我国の占領地域が日本全土の二倍半であるとするならば、まだ十二倍半の領土が支那に残されて居るのであります。此の広大なる所の領土に加うるに、之に相当する所の人口を以てして、之を統轄する所の力を有する者でなければ、支那の将来を担って立つことは出来ない。近く現われんとする所の新政府は是だけの力があるのであるか。

私共如何に鼻眞目に見ましても、此の新政府に是だけの力があるとはどうも思えないのであります。そうするとどうなるのでありますか。

若し蒋介石を撃滅することが出来ないとするならば、是は最早問題でない。縦し之を撃滅することが出来たとしても、其の後はどうなる。新政府に於て支那を統一する所の力があるのでありますか。あると言わるるならば其の理由を私は承って置きたい。

若し其の確信がないとせらるるならば、支那の将来はどうなるか。各所に於て政權が分立して、互に軋轢して摩擦を起す。新秩序の建設も何もあつたものではないのであります。(拍手)

そうして斯の如き状態が支那に起るのは何が基であるかと云うと、語り蔣政權を相手にしては一切の和平工作をやらない、即ち一昨年一月十六日、近衛内閣に依つて声明せられました所の爾来国民政府を相手にせず、之に原因して居るものではないかと思うが、政府の所見は如何であるか。

而して若し今後此の方針を固く守つて進みますならば、表面に於ても裏面に於ても、公式非公式を問わず、一切重慶政府を相手としてはならないのである。又我国が之を相手とすることが出来ないのみならず、近く現われんとする所の新政權も、断じて重慶政府を相手にすることは出来ない筈なのであります。

我が日本は相手にはしないが、新政府は之を相手にしても宜いと云うことは、是は言

われない。なぜならば新政府に対しては日本は干渉はしないが指導するのである。即ち新政府に対して日本は指導的立場に立って居るのでありますから、若し新政府が重慶政府に向って何か交渉の途を開くと仮定致しまするならば、是は誰が見た所が日本の指導に基くものに相違ないと思う。

又思われても仕方がないのであります。そうすると支那の将来はどうなるものでありますか。何時まで経っても此の現状をば清算することは出来ないと思われるのであります。政府は此の点に付てどう云う御考を持って居られるのでありますか、是も併せて伺いたいののであります。(拍手)

私の質問は大体以上を以て終りを告げるのであります。最後に於て一言を残して、併せて政府の所信を質して置きたいことがある。

改めて申すまでもござりませぬが、支那事変は実に建国以来の大事件であります。建国以来二千六百年、此の間に於て我国は幾度か外国と事を構えたことはありますけれども、今回の事変の如く其の規模の広大なるもの、其の犠牲の大なるものはないのであります。

随って此の事変が如何に処理せられ如何に解決せらるるか云うことは、実に我が日本帝国の興廢の岐るる所であります。事変以来今日に至るまで吾々は言わねばならぬこと、論ぜねばならぬことは沢山あるのであります。是は言わない、是は論じないのであります。

吾々は今日に及んで一切の過去を語らない、又過去を語る余裕もないのであります。一切の過去を葬り去って、成べく速に、成べく有利有効に事変を処理し解決したい。是が全国民の偽りなき希望であると同時に、政府として執らねばならぬ所の重大なる責任であるのであります。(拍手)歴代の政府は国民に向って頻りに精神運動を始め居る。精神運動は極めて大切であります。精神運動だけで事変の解決は出来ないのである。況や此の精神運動が国民の間にどれだけ徹底して居るか云うことに付ては、此の際政府としても考え直さねばならぬことがあるのではないか。(拍手)

例えば国民精神総動員なるものがあります。此の国費多端の際に当って、随分巨額の費用を投じて居るのであります。一体是は何を為して居るのであるかは私共には分らない。(拍手)此の大事変を前に控えて居りながら、此の事変の目的は何処にあるか云うことすらまだ普く国民の間には徹底して居らないようである。(「ヒヤヒヤ」拍手)

聞く所に依れば何時ぞや或る有名な老政治家が、演説会場に於て聴衆に向つて今度の戦争の目的は分らない、何の為に戦争をして居るのであるか自分には分らない、諸君は分つて居るか、分つて居るならば聴かして呉れと言うた所が、満場の聴衆一人として答える者がなかつたと云うのである。(笑声)

此処が即ち政府として最も注意をせねばならぬ点であるのである。殊に国民精神に極めて重大なる關係を持つて居るものであつて、歴代の政府が忘れて居る所の幾多の事柄があるのであります。

例えば戦争に対する所の国民の犠牲であります。何れの時に方りましても戦時に當つて国民の犠牲は、決して公平なるものではないのであります。

即ち一方に於ては戦場に於て生命を犠牲に供する、或は戦傷を負う、然らざるまでも悪戦苦闘して有ゆる苦難に耐える百万二百万の軍隊がある。

又仮令戦場の外に居りまして、戦時經濟の打撃を受けて、是までの職業を失つて社会の裏面に蹴落される者もどれだけあるか分らない。然るに一方を見ますと云うと、此の戦時經濟の波に乗つて産業なるものが勃興する。或は「インフレーション」の影響を受けて一攫千金は愚か、実に莫大なる暴利を獲得して、目に余る所の生活状態を曝け出す者もどれだけあるか分らない。(拍手)

戦時に當つては己むを得ないことではありますけれども、政府の局に在る者は出来得る限り此の不公平を調節せねばならぬのであります。然るに此の不公平なる所の事実を前に置きながら、国民に向つて精神運動をやる。

国民に向つて緊張せよ忍耐せよと迫る。国民は緊張するに相違ない。忍耐するに相違ない。併しながら国民に向つて犠牲を要求するばかりが政府の能事ではない。(拍手)是と同時に政府自身に於ても真劍になり、真面目になつて、以て国事に當らねばならぬのではありませぬか。(「ヒヤヒヤ」拍手)

然るに歴代の政府は何を爲したか。事變以来歴代の政府は何を爲したか。(「政党は何をした」「黙つて聞け」と呼ぶ者あり)二年有半の間に於て三たび内閣が辭職をする。政局の安定すら得られない。斯う云うことでどうして此の国難に當ることが出来るのであるか。畢竟するに政府の首脳部に責任觀念が欠けて居る。(拍手)

身を以て国に尽す所の熱力が足りないからであります。畏多くも組閣の大命を拝しながら、立憲の大義を忘れ、国論の趨勢を無視し、国民的基礎を有せず、国政に対して何等の経験もない。

而も其の器にあらざる者を拾い集めて弱体内閣を組織する。国民的支持を欠いて居るから、何事に付ても自己の所信を断行する所の決心もなければ勇氣もない。姑息倫安1日彌縫する所の政治をやる。失敗するのは当たり前であります。(拍手)

斯う云うことを繰返して居る間に於て事変は益々進んで来る。内外の情勢は愈々逼迫して来る。是が現時の状態であるのではありませぬか。之をどうするか、如何に始末をするか、朝野の政治家が考えねばならぬ所は玄に在るのであります。

吾々は遡って先輩政治家の跡を追想して見る必要がある。日清戦争はどうであるか、日清戦争は伊藤内閣に於て始められて伊藤内閣に於て解決した。日露戦争は桂内閣に於て始められて桂内閣が解決した。当時日比谷の焼打事件まで起りましたけれども、桂公は一身に国家の責任を背負うて、此の事変を解決して然る後に身を退かれたのであります。

伊藤公と云い、桂公と云い、国に尽す所の先輩政治家は斯の如きものである。然るに事変以来の内閣は何であるか。外に於ては十万の将兵が獲れて居るに拘らず、内に於て此の事変の始末を着けなければならぬ所の内閣、出る内閣も出る内閣も輔弼の重責を誤って辞職をする内閣は辞職をすれば責任は済むかは知れませぬが事変は解決はしない。護国の英霊は蘇らないのであります。(拍手)

私は現内閣が歴代内閣の失政を繰返すこと勿れと要求をしたいのであります。事変以来我が国民は実に従順であります。言論の圧迫に遭って国民的意見、国民的感情をも披瀝することが出来ない。殊に近年中央地方を通じて、全国に瀰漫して居ります所の彼の官僚政治の弊害には、悲憤の涙を流しながらも黙々として政府の命令に服従する。政府の統制に服従するのは何が為であるか、一つは国を愛する為であります。

又一つは政府が適当に事変を解決して呉れるであろう之を期待して居るが為である。然るに若し一朝此の期待が裏切らるることがあったならばどうであるか、国民心理に及ぼす影響は実に容易ならざるものがある。(拍手)

而も此の事が、国民が選挙し国民を代表し、国民的勢力を中心として解決せらるるならば尚忍ぶべしといえども、事実全く反対の場合が起ったとしたならば、国民は実に失望のどん底に蹴落されるのであります。国を率いる所の政治家は立に目を着けなければならぬ。

繰返して申しますが、事変処理は有ゆる政治問題を超越する所の極めて重大なる所の問題であるのであります。内外の政治は悉く支那事変を中心として動いて居る。現に此の議会に現われて来ます所の予算でも、増税でも其他有ゆる法律案は何れも直接間接に事変と関係をもたないものはないであります。

それ故に其の中心であります所の支那事変は如何に処理せらるるものであるか、其の処理せらるる内容は如何なるものであるか、是が相当に分らない間は、議会の審議も進めることが出来ないのである。

私が政府に向って質問する趣旨はここににあるのでありますから、総理大臣は唯私の質問に答えるばかりではなく、尚進んで積極的に支那事変処理に関する所の一切の抱負経緯を披瀝して、此の議会を通して全国民の理解を求められんことを要求するのである。(拍手)

私の質問は之を以て終りと致します。(拍手)